

作成日 2022/01/24

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : ピットレジン PF

製品番号 (SDS NO) : 2613002

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : フロントガラスの補修

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : 旭エンジニアリング株式会社

住所 : 大阪府大阪市福島区鶯洲4-4-3

担当部署 : 管理部

電話番号 : 06-6452-5811

FAX : 06-6452-5770

緊急連絡先電話 : 06-6452-5811

### 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性: 区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分 1

皮膚感作性: 区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 2

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 2

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性): 区分 2

水生環境有害性 長期(慢性): 区分 3

(注) 記載なきGHS分類区分: 区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

皮膚刺激

重篤な眼の損傷

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

臓器の障害のおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

水生生物に毒性

長期継続的影响によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

環境への放出を避けること。

ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

取扱い後は汚染個所をよく洗うこと。

保護手袋を着用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

#### 応急措置

特別な処置が必要である。

気分が悪いときは、医師の診察/手当を受けのこと。

直ちに医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察/手当を受けのこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

#### 貯蔵

施錠して保管すること。

#### 廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

#### 化学物質・混合物の区別：

##### 混合物

成分名	CAS No.	含有量 (%)	化審法番号
アクリル酸イソポルニル	5888-33-5	30 - 60	4-1552
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル	868-77-9	10 - 30	2-1044
アクリル酸	79-10-7	1 - 5	2-984

注記：これらの値は、製品規格値ではありません。

#### 危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

アクリル酸

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

アクリル酸

化管法(令和5年3月31日まで有効)「第1種指定化学物質」該当成分

アクリル酸

化管法(令和5年4月1日施行)「第1種指定化学物質」該当成分

アクリル酸

### 4. 応急措置

#### 応急措置の記述

##### 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

##### 皮膚(又は髪)に付着した場合

皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察/手当を受けのこと。

##### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。

その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当を受けのこと。

##### 飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

#### 急性症状及び遅延性症状の最も重要な徴候症状

徴候症状及び影響に関する具体的な情報なし。

#### 医師に対する特別な注意事項

特別な処置が必要である。

## 5. 火災時の措置

### 消火剤

#### 適切な消火剤

火災の場合は泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。

#### 使ってはならない消火剤

噴流水を消火に用いてはならない。

### 特有の危険有害性

燃焼の際に有毒な炭素酸化物、窒素酸化物を生成する。

### 消火を行う者への勧告

#### 特有の消火方法

関係者以外は安全な場所に退去させる。

霧状水により容器を冷却する。

### 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業従事者は全面型陽圧の自給式呼吸保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

換気不十分な場所で漏洩を処理するときは自給式呼吸保護具を着用する。

適切な保護具を着用する。

着火源を取除くとともに換気を行う。

### 環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

下水、排水中に流してはならない。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性の物質(乾燥砂、土など)に吸収させて、容器に回収する。

多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。

回収物はラベルを貼って密閉容器に保管する。

### 二次災害の防止策

安全に対処できるならば漏えい(洩)を止めること。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

##### (取扱者のばく露防止)

ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

##### (火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

##### (局所排気、全体換気)

排気/換気設備を設ける。

##### (注意事項)

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

### 安全取扱注意事項

屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

保護手袋を着用すること。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

### 接触回避

強酸、強塩基、強酸化性物質、アミン類、脱酸素剤、チオ硫酸塩との接触を避けること。  
衛生対策

- 眼、皮膚、衣類につけないこと。
- 取扱い後は汚染個所をよく洗うこと。
- この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- 取扱い後はよく手を洗う。

#### 保管

##### 安全な保管条件

- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- 涼しいところに置き、日光から遮断すること。
- 施錠して保管すること。

##### (避けるべき保管条件)

- 高温、着火源(裸火、火花など)を避けること。

安全な容器包装材料データなし

## 8. ばく露防止及び保護措置

#### 管理指標

管理濃度データなし

#### 許容濃度

日本産衛学会の許容濃度データなし

(アクリル酸)

ACGIH(1996) TWA: 2ppm (上気道刺激)

#### 特記事項

(アクリル酸)

皮膚吸収

#### ばく露防止

#### 設備対策

排気/換気設備を設ける。

洗眼設備を設ける。

手洗い/洗顔設備を設ける。

#### 保護具

##### 呼吸用保護具

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

##### 手の保護具

保護手袋を着用する。推奨材質: 非浸透性もしくは耐化学品ゴム

##### 眼の保護具

側面シールド付安全メガネまたは化学品用ゴーグルを着用する。

##### 皮膚及び身体の保護具

保護衣を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態 : 液体

色 : 無色、透明

臭い : 特有臭

臭いの閾値データなし

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点データなし

沸点範囲データなし

可燃性(ガス、液体及び固体): 可燃性

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点 : 101°C

自然発火点データなし

分解温度データなし

pHデータなし

動粘性率データなし

溶解度:

水に対する溶解度データなし

溶媒に対する溶解度データなし

n-オクタノール/水分配係数データなし

蒸気圧データなし

蒸発速度データなし

密度及び/又は相対密度データなし

相対ガス密度(空気=1)データなし

粒子特性 : 適用外

## 10. 安定性及び反応性

反応性

反応性データなし

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

加熱、火災、安定剤/禁止剤が失活などの場合:重合暴走反応のおそれがある。

避けるべき条件

高温、着火源(裸火、火花など)、直射日光を避けること。

混触危険物質

強酸、強塩基、強酸化性物質、アミン類、脱酸素剤、チオ硫酸塩

危険有害な分解生成物

炭素酸化物、窒素酸化物

## 11. 有害性情報

otoxicologyに関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[日本公表根拠データ]

(メタクリル酸2-ヒドロキシエチル)

rat LD50=5050mg/kg (SIDS, 2005; SIDS Dossier, 2005); rat LD50>4000mg/kg (SIDS Dossier, 2005)

(アクリル酸)

rat LD50=340, 1250mg/kg (ACGIH 7th, 2001)

急性毒性(経皮)

[日本公表根拠データ]

(メタクリル酸2-ヒドロキシエチル)

rabbit LD50 >3000mg/kg (SIDS, 2005; DFGOT vol. 13, 1999)

(アクリル酸)

rabbit LD50=295mg/kg (EHC 191, 1997)

急性毒性(吸入)

[日本公表根拠データ]

(アクリル酸)

vapor: rat LC50=1221ppm/4hr (EHC 191, 1997)

mist (aerosol): rat LC50=7500mg/m<sup>3</sup>/2hr (換算値 3.75mg/L/4hr) (EHC 191, 1997)

労働基準法: 疾病化学物質

メタクリル酸2-ヒドロキシエチル

局所効果

皮膚腐食性/刺激性  
[日本公表根拠データ]  
(アクリル酸)  
ラビット/ヒト 腐食性 (EU-RAR, 2002; ECETOC JACC, 1995)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性  
[日本公表根拠データ]  
(メタクリル酸2-ヒドロキシエチル)  
ラビット 強い刺激性 (SIDS, 2005)  
(アクリル酸)  
ラビット 強い刺激性 (NITE初期リスク評価書, 2008 et al)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

感作性[厚労省局長通達]  
メタクリル酸2-ヒドロキシエチル

皮膚感作性  
[日本公表根拠データ]  
(メタクリル酸2-ヒドロキシエチル)  
cat. 1; (SIDS, 2005; DFGOT vol. 13, 1999)

生殖細胞変異原性データなし

発がん性  
[IARC]  
(アクリル酸)  
Group 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない  
[ACGIH]  
(アクリル酸)  
A4(1996) : ヒト発がん性因子として分類できない

生殖毒性データなし

特定標的臓器毒性  
特定標的臓器毒性(単回ばく露)  
[区分1]  
[日本公表根拠データ]  
(アクリル酸)  
呼吸器、腎臓 (EU-RAR, 2002; NITE初期リスク評価書, 2008)

[区分2]  
[日本公表根拠データ]  
(アクリル酸)  
肝臓 (EU-RAR, 2002; NITE初期リスク評価書, 2008)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)  
[区分1]  
[日本公表根拠データ]  
(アクリル酸)  
呼吸器 (厚労省委託がん原性試験報告, Access on Jun. 2014)

誤えん有害性データなし

## 12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

水生生物に毒性

長期継続的影響によって水生生物に有害

水生環境有害性 短期(急性)

## [日本公表根拠データ]

(アクリル酸)

藻類 (セネデスマス) ErC50=0.13mg/L/72hr (EU-RAR, 2002; EHC 191, 1997)

(メタクリル酸2-ヒドロキシエチル)

藻類 (Pseudokirchn eriella subcapitata) EC50 (速度法)=710mg/L/72hr (環境省生態影響試験, 2017);

魚類 (メダカ) LC50&gt;100mg/L/96hr;

甲殻類 (オオミジンコ) EC50=380mg/L/48hr (ともに環境省生態影響試験, 2017; OECD SIDS, 2001)

## 水生環境有害性 長期(慢性)

## [日本公表根拠データ]

(アクリル酸)

藻類 (セネデスマス) NOEC=0.016mg/L/72hr (NITE 初期リスク評価書, 2008; EU-RAR, 2002)

(メタクリル酸2-ヒドロキシエチル)

甲殻類 (オオミジンコ) NOEC (繁殖阻害)=24mg/21days (環境省生態影響試験, 2017)

## 水溶解度

(アクリル酸)

混和する (ICSC, 2013)

(メタクリル酸2-ヒドロキシエチル)

100 g/100 ml (PHYSProp\_DB, 2008)

## 残留性・分解性

(アクリル酸)

BODによる分解度: 67.8% (既存点検, 1975)

(メタクリル酸2-ヒドロキシエチル)

急速分解性あり (BODによる分解度 : 95% (化審法DB, 1989))

## 生体蓄積性

(アクリル酸)

log Pow=0.35 (PHYSProp DB, 2009)

(メタクリル酸2-ヒドロキシエチル)

Log Kow=0.47 (SRC PHYSProp DB, 2017)

## 土壤中の移動性

土壤中の移動性データなし

## 他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

## 13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報  
廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

承認された廃棄物集積場で処理する。

下水、地中、水中への廃棄を行ってはならない。

## 汚染容器及び包装

内容物を使い切ってから、容器を廃棄すること。

## 14. 輸送上の注意

## 国連番号、国連分類

国連番号またはID番号 : 該当しない

正式輸送名 : 該当しない

分類または区分 : 該当しない

容器等級 : 該当しない

IMDG Code (国際海上危険物規程) に該当しない

IATA 航空危険物規則書に該当しない

## 環境有害性

**MARPOL条約附属書III – 個品有害物質による汚染防止**

海洋汚染物質（該当/非該当）：非該当

**特別の安全対策**

特別の安全対策データなし

**バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード**

有害液体物質(Y類)

アクリル酸(Y-002)

**国内規制がある場合の規制情報**

船舶安全法に該当しない。

航空法に該当しない。

**15. 適用法令**

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令  
毒物及び劇物取締法に該当しない。

**労働安全衛生法**

特化則に該当しない製品

有機溶剤等に該当しない製品

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

アクリル酸(別表第9の2)

名称通知危険/有害物

アクリル酸(別表第9の2)

**化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年3月31日まで有効)**

第1種指定化学物質

アクリル酸及びその水溶性塩(5.0%)(1-004)

**化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年4月1日施行)**

第1種指定化学物質

アクリル酸及びその水溶性塩(5.0%)(管理番号4)

**消防法**

危険物

第4類 引火性液体第3石油類 危険等級 III(指定数量 2,000L)

**化審法**

優先評価化学物質

アクリル酸(政令番号94 人健康影響/生態影響)

**水質汚濁防止法**

指定物質

アクリル酸

法令番号 10

**16. その他の情報****参考文献**

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN

IMDG Code, 2018 Edition (Incorporating Amendment 39-18)

IATA 航空危険物規則書 第62版 (2021年)

2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2021 TLVs and BEIs. (ACGIH)

JIS Z 7252 : 2019

JIS Z 7253 : 2019

2021 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

GESTIS-Stoffdatenbank

Pub Chem (OPEN CHEMISTRY DATABASE)

責任の限定について

本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によつて改訂される事があります。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ（NITE 令和2年度(2020年度)）です。